

海況情報収集迅速化システム開発試験*

中地 良樹・杉村 允三・竹内 淳一
武田 保幸・調査船「わかやま」
船長 藤井 一人 他6名

目 的

本県沿岸域は黒潮の影響を受ける海域であり、黒潮の変動現象を把握することは、魚群分布・漁場形成の予測には不可欠な海況情報である。このため黒潮流域および黒潮内側域の迅速かつ詳細な海況情報を得るための収集システムを開発する。調査は南西海区水産研究所の指導調整のもと、(社)漁業情報サービスセンターと8県の関係試験研究機関が共同で実施した。

方 法

1. 調査船調査

和歌山県水産試験場調査船「わかやま」により沖合定線調査時にドップラー流速計(ADCP)による測流を実施した。観測に使用したADCPは古野電気製CI-30海流演算装置付きである。

2. 定置水温調査

有田市逢井および日高郡由良町大引地先の各定置網漁場において観測水深が10mになるようメモリー式自記水温計を設置した。

結 果

1. 調査船調査

4月から翌年3月までに14回(6月および8~9月は各2回、1月は欠測)の調査を実施し、結果は沖合黒潮調査速報で南西海区水産研究所・関係機関および県内漁協等にFAX送信した。

2. 定置水温調査

観測場所は、4月~8月までは逢井定置漁場、12月~翌2月は大引定置漁場である。9~11月および3月は水温計流失等のトラブルにより欠測となった。

午前9時の水温観測結果は図1に示した。水温は、5月初旬の17℃台から上旬後半には20℃台へジャンプ

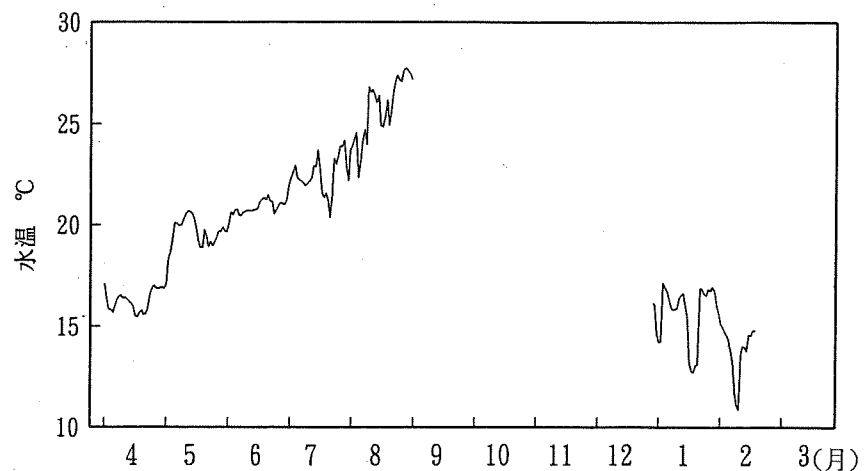


図1 逢井・大引10m午前9時の水温観測結果(1995.4~1996.3)

*海況情報収集迅速化システム開発試験事業費による。

がみられ、中旬に一時18℃台へ降温したが概ね19℃台で経過した。5月10日の NOAA-12号の人工衛星画像(漁業情報サービスセンター提供)によると、紀伊水道外域沖合の中央部からの暖水は、水道内を和歌山県沿岸沿いに進入していた。その後水温は、6月は概ね19~20℃台と変動幅は小さかったが、7月は20~24℃台、8月は20~28℃台と8月の水温変動が大きかった。特に8月初旬には、24℃台(1日)→20℃台(2日)→25℃台(4日)と短期変動が顕著であった。また、夏季は7月は梅雨前線が西日本に比較的停滞したが、8月は記録的な猛暑となり気象の影響も大きかったと推察される。水温は8月の概ねやや高めを除いて前年よりも低めで経過した。最高水温は、8月25日に27.77℃を観測した。

大引の水温は、12月下旬(28日)、'96年1月中旬(15日)および2月上旬(5日)に暖水波及がみられた。このため観測開始の12月下旬後半から2月中旬前半の観測終了までの期間の水温は、10~17℃台と変動が大きく、12月は14~17℃台、'96年1月は12~16℃台、2月は10~14℃台で経過した。最低水温は、'96年2月4日に10.85℃を観測した。